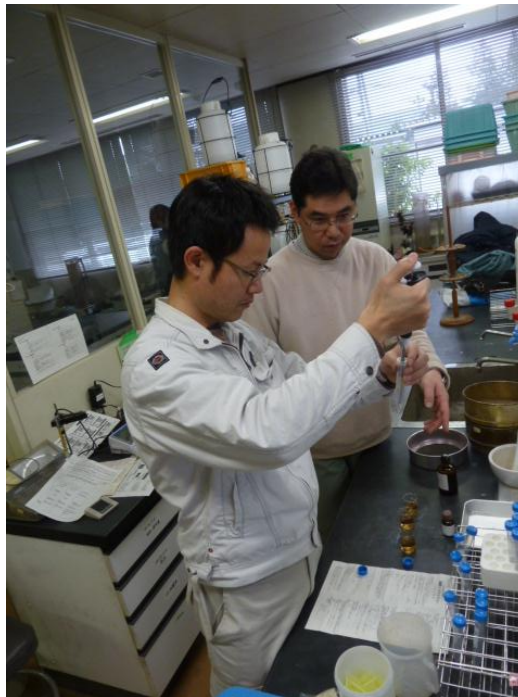


平成 25 年度飼料用米タスクチーム活動を準備

府の平成 24 年飼料用米栽培面積は約 92ha で、3 年間で 9 倍に増加していますが、さらなる収量の安定化と生産費の低減が課題です。そこで実用技術開発事業の成果である水田に施用する鶏ふんの簡易診断技術を活用し、平成 25 年度にタスクチーム活動*で肥料コスト低減技術等の実証・普及を図ることとしています。

2 月 21 日に、これまで研究機関でしかできなかった鶏ふんの窒素無機化量が中丹東農業改良普及センターで簡易に推定できることを確認しました。この技術を用いて、今春、福知山市三岳地区で行う飼料用米の栽培試験での鶏ふん散布量を決定し、実証する予定です。

※タスクチーム活動：研究機関と普及組織が連携して地域の重要課題を解決する活動



鶏ふんの肥効の簡易予測技術を習得